

生徒自身が学ぶ指針を持って、 授業を進める指導方法の工夫

技術・家庭科の目標を改めて確認してみると学習指導要領には「生活に必要な・・・進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。」とある。あくまでもものづくりはそのための手段であり、技術分野ではのこぎりで材料を切断したり、かんなで材料を上手く削れたりするようになることは二次的なことになる。そこで、生徒自身が自分の学ぶ内容を知り、たえず自分が行っている作業の意味を知るとともに、その作業結果の評価ができるようなワークシートを与えたり、授業の流れを構成したりすることが教師の役割だと考えられる。

1. はじめに中学校に入学してくる生徒の実態

小学校には技術分野に当たる教科はなく、関連する教科として、図画工作・算数・理科・生活が考えられる。そこで技術分野に必要な基本的ないくつかのスキルを身につけてくることになるが、中にはそのスキルを十分に技術分野で使えるところまで身につけてこられない生徒がいる。スキルの例をいくつか上げてみると、「物差し（定規）を使って寸法を測る」、「定規を使って真っ直ぐな線を引く」、「直角という概念を知るとともに目で見て大まかに直角を判断する」、「平面的な図を見て立体的に物を認識する」、「生物の成育に関係する要素について知っている」等がある。

また、各教科は学問としてそれ自体を学ぶことが目的とされ、教科での内容を組み合わせたり、融合させたりして、学習してきたことを総合的に活用して長いスパンでものをつくるのが苦手な生徒が多い。

2. 学ぶ内容を知り、全体の見通しを立てさせる

ものづくりの始めは構想からということになるが、いきなり題材を示して、その題材を考えた構想と言っても生徒には実感を持って理解することはできない。技術分野では何を目標にして、どんな題材を通してそれを学ぶのかを知らせなければならない。つまりオリエンテーションと言うことになるが、その方法を一つ提案したい。図1のように中央に題材を置き、ここからは生徒に今までの学習や経験・教科書などから、枝を伸ばすようにその題材は生活の中でどのように使

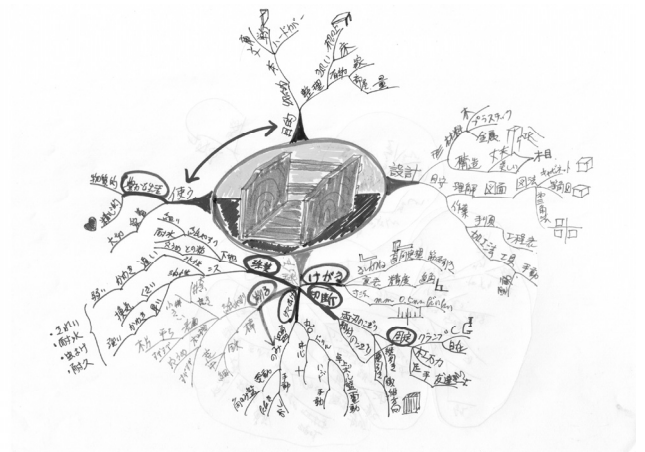


図1

われるかというように発想を広げてゆき、生徒の発表の中から、まず、技術分野の目標に思考をたどり着かせる。さらに中央の題材から複数の枝を出し、それが構想で考える材料や構造、加工法などになるように広げ、それぞれからまた発想できることをどんどん発表させ記録していく。最終的にそこには題材＝作品を作る上で考えなければならないこと、作業しなければならないことが一目で見渡せる形で表されていることになる。個人での作業ではなく、全体で行うことによって小学校でのスキルが十分に身につけていない生徒が、そのこと自体に気がつくということもある。これを組ごとに模造紙一枚にまとめ、掲示することで他の組との違いにも気がつき、さらに作業中いつも見られることで自分の学習内容を確認することができる。

3. 自分の成長に気づき、意欲を持続させる

技術分野の題材は他の教科に比べ、取り組むスパン

